

## 奇跡だ～念願のミツバチ巣箱入り～

編集委員 黒木三鶴

先日、方舟館に行った際、一匹の小さなミツバチが部屋の中に入り込んできた。きっと心地よい住まいを探索しているに違いないと親しみを覚えた。

ところで、我が家に初めてミツバチの巣箱を設置したのは、ミツバチが住み着いている巣箱を知り合いに分けてもらったことがきっかけ。蜂蜜を採る作業もすべてその方に委ねていたため、さほど関心を抱くことはなかった。それでも、いつの日かミツバチから選ばれるような巣箱を設置したいと考えるようになった。

夢が膨らんできたのは一昨年夏のことだった。私の弟から蜂蜜採取の実技指導を受けた。その時のミツバチの行動と採取した蜂蜜には驚きと感動で言葉を失ってしまった。その光景は今でも鮮明に覚えている。ハチ除け帽子も何も身に着けず作業開始。巣箱を傾けると一瞬にして半径2～3メートルの範囲で数千匹ものミツバチの乱舞が始まる。その数秒後には弟の肩から胸あたりまで群がるものもあり、飛び交う様にも落ち着きがみられる。2メートル近く離れた場所で緊張しながら見ている私の周りにもミツバチは近寄ってくることはあったが刺されることはなかった。巣にびっしり詰まった濃厚な蜂蜜を3段ほど採取させてもらった。残りの蜂蜜はそのまま巣箱の中に置くのだ。数千匹のミツバチが冬を乗り切るために欠かせないのだ。こんなにもたくさんの蜂蜜を集めることができたミツバチたちの働きに只々頭が下がる。ミツバチが一回に運ぶことができる蜜の量は0.5g、ひと月ではスプーン一杯程度と聞くと驚くばかりである。弟は群がっているミツバチをペットでもなでるように優しく巣箱に導いていく。

さて、「今年こそはミツバチがうちの巣箱を選択してくれますように」と願いを込めて、梅の木の下と家の玄関の横に巣箱を設置した。どちらの巣箱も丁寧に掃除し、新しい住まいを探すミツバチが好むラン（キンリョウヘン）を巣箱の横において遠くから見守ることにした。すると、1匹、2匹、住まい探しバチが様子をうかがっている。近所に住む友人から「うちの巣箱には入ったど。」とうらやましい知らせが飛び込む。あきらめ切れず、ランと巣箱を取り替え待つ。その時、地域の方から「うちのミツバチが分蜂した。」の声。その巣別れしたミツバチだろうか、うちの巣箱に入っているではないか。奇跡だ。

ここ友愛園も自然に恵まれ、四季折々の花々が咲き誇り、ニホンミツバチにとって住み心地が良い場所。ミツバチはこちらから攻撃をしない限り危害を加えることは、ほとんどないそうだ。巣箱を設置して環境学習に生かしてはどうだろう。是非、巣箱を寄贈したい。



巣箱に入ったミツバチたち